



平成30年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月10日

上場会社名 株式会社イグニス
 コード番号 3689 URL <http://1923.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 錢 鋸
 (氏名) 山本 彰彦
 TEL 03-6408-6820

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第3四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	3,636	11.5	951		979		1,083	
29年9月期第3四半期	4,109	1.8	123	89.7	112	90.6	10	98.9

(注) 包括利益 30年9月期第3四半期 1,109百万円 (%) 29年9月期第3四半期 23百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第3四半期	80.59	
29年9月期第3四半期	0.81	0.78

1. 当社は、平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 平成30年9月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
30年9月期第3四半期	5,018		3,206		63.6
29年9月期	6,291		4,135		64.3

(参考) 自己資本 30年9月期第3四半期 3,189百万円 29年9月期 4,046百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期		0.00		0.00	0.00
30年9月期		0.00			
30年9月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	
	百万円	%
通期	4,400	21.1

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)：無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
以外の会計方針の変更：無
会計上の見積りの変更：無
修正再表示：無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年9月期3Q	13,675,800 株	29年9月期	13,412,200 株
期末自己株式数	30年9月期3Q	43,234 株	29年9月期	43,128 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年9月期3Q	13,447,524 株	29年9月期3Q	13,080,868 株

(注)当社は、平成29年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4、「当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は平成30年8月10日に当社ウェブサイトに掲載し、平成30年8月11日にTDnetで開示予定となります。また、音声による補足説明についても速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)は「世界にインパクトを与えなければ、気がすまない」という経営理念及び「次のあたりまえを創る。何度でも」というミッションのもと、インターネット、スマートフォン等を通じたさまざまなビジネス領域において、多くのユーザーに支持されるサービスの企画・制作・運営を行っております。

当社グループが展開するビジネスとして、「運命より、確実。」をキャッチコピーとしたオンライン恋愛・婚活サービス『with』等のコミュニティ、1日3回のド迫力リアルタイム協力バトルが楽しめるスマホRPG『ぼくとドラゴン』等のネイティブゲーム、メディアの『U-NOTE』やモビリティサービス・プラットフォームの『TLUNCH』等を中心としたその他という3ジャンルを既存事業と位置付けて展開しております。さらに、新規ジャンルへのチャレンジとして、今後、サービスの普及拡大と急成長が見込まれる分野であるVR(Virtual Reality:仮想現実)やAI(Artificial Intelligence:人工知能)、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)等の最先端技術の商業化を目指しており、特にVRとAIを活用したビジネスを積極的投資事業と位置付け、早期収益化に向けて前連結会計年度より積極的に経営資源を投入してまいりました。

VRでは、エンターテインメント分野と医療分野についての研究開発を推進しております。その中でも新しい音楽体験を創造するVirtual Live Platform「INSPIX」の開発加速・海外展開やVRにおける新規IP(Intellectual Property:知的財産)の創出等といったエンターテインメント分野に力を注いでおります。「INSPIX」は、業務提携先である株式会社岩本町芸能社のVRアイドル「えのぐ」によるライブパフォーマンスに活用するなど開発は順調に進んでおります。また、VRアイドル「えのぐ」のみならず、新規IP(VRタレント等)の創出に取り組んでおります。医療分野では順天堂大学との共同研究として『Virtual Realityアプリケーションによる慢性痛み刺激の緩和の臨床研究』も開始しておりますが、長期視点での研究開発を見込んでおります。このように、当社グループではVRにかかるリソースの最大化に努めております。

AIでは、製造業者の工場におけるAI技術を活用したAIロボットによる検査工程の自動化の開発・検証を行っております。この検査工程の自動化については愛知県豊田市内の自動車部品メーカーと提携し取り組んでおります。現在、日本の製造業においては生産・製造工程ではロボットを活用した自動化が進んでおりますが、検査工程に関しては自動化ができていない状況であるため、AI技術を活用したAIロボットを開発・提供し、日本の製造業における生産性向上・効率化に貢献してまいります。これらVR・AIの新規ジャンルについては、現時点で収益化はしていませんが、役職員一同、早期収益化を目指し、開発・検証・マーケティングを行っております。

当期の事業計画として、中期経営計画最終年度(平成32年9月期)の目標である連結売上高150億円、連結営業利益60億円の達成に向け、安定感のある事業ポートフォリオを構築しており、一事業に依存しない事業の多面展開を行っております。今後においてはストック型の強固な事業と爆発力のある事業という2つの収益ドライバーを持ち、更なる成長を目指してまいります。

以上のとおり、当第3四半期連結累計期間では、前連結会計年度に引き続き既存事業強化・最先端技術の商業化に向け、積極的な先行投資を行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,636,993千円(前年同四半期比11.5%減)、営業損失は951,449千円(前年同四半期は営業利益123,994千円)、経常損失は979,631千円(前年同四半期は経常利益112,714千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,083,670千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益10,600千円)となりました。

なお、当社グループはセグメント情報を記載していないため、セグメントごとの業績は省略しております。

各ジャンルの取り組みと業績は以下のとおりであります。

(コミュニティ)

当第3四半期連結累計期間はオンライン恋愛・婚活サービス『with』において、ユーザー数の増加を目指した積極的なプロモーションを展開してきたこともあり、「2017年国内マッチングアプリダウンロードランキング」では5位、「2017年国内・非ゲームアプリ収益ランキング」では30位を記録しました(注1)。足元でも国内ソーシャルネットワークワーキングのカテゴリにおける売上ランキングは上位収斂しております。このような中、他社類似サービスとの差別化を図るべく、心理学を活用して最適な男女のマッチングを目指し、「自己紹介文の自動生成機能」や「メンタリストDaiGo監修の診断イベント機能」等、機能追加やイベントを継続的に実施してまいりました。他社類似サービスを含め国内でオンライン恋愛・婚活サービスが急速に浸透してきていることから、『with』についてはプロモーションによる新規流入だけでなく、口コミによる流入も増加傾向にあります。その結果、平成30年5月時点における会員数が100万人、マッチング数が770万組を突破し、サービスが順調に伸びております。当該サービスについては、引き続きユーザービリティの向上や精度の高いマッチングを実現する機能を継続的に投入していくことで、ユーザー満足度の高いサービスを目指してまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は1,170,273千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は557,249千円であったことから、前年同四半期比110.0%増となっております。

（ネイティブゲーム）

当第3四半期連結累計期間は平成30年3月28日に配信を開始いたしましたスマートフォン向けゲームアプリ『メガスマッシュ』につきまして、ユーザー継続率・課金率が伸び悩み、新規キャラクターの追加や各種イベント施策を講じてまいりましたが、継続率及び課金率の大幅な改善には至らなかったことから、平成30年7月18日をもってサービスを終了することとなりました。一方、主力タイトルの『ぼくとドラゴン』は配信開始から4年目に突入しておりますが、スマートフォン向けゲームアプリマーケットの競争が一層激化してきている中でも、プロジェクト利益は好調に推移しております。また、既存ユーザーの満足度向上を目指すため、季節イベントの強化や「進撃の巨人コラボキャンペーン 第二弾」や株式会社NTTドコモ提供の出前・フード宅配サイト『dデリバリー』とのコラボレーションキャンペーンといった新たな取り組みにもチャレンジいたしました。今後は大型IPコラボキャンペーンも準備しており、更なるユーザー満足度の向上と収益の安定化に努めてまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は2,187,880千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は3,247,485千円であったことから、前年同四半期比32.6%減となっております。

（その他）

その他（注2）はビジネスパーソン向け情報メディア『U-NOTE』及びモビリティサービス・プラットフォーム『TLUNCH』並びにどのジャンルにも属さないプロダクト等により構成されております。

当第3四半期連結累計期間は、主に『TLUNCH』が首都圏を中心に運営スペースと登録フードトラック事業者数を拡大させており、運営スペースについては平成30年6月末時点で70スペース（前年同期比318%増）を突破し急成長を遂げ、日本最大級の規模となっております（注3）。また、今後急成長が見込まれるVRやAI・IoTといった最先端技術に着目した新規事業にも投資を積極的に行ってまいりました。現状、この新規ジャンルは投資段階であります。早期収益化できるよう邁進いたします。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は278,839千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は304,769千円であったことから、前年同四半期比8.5%減となっております。

（注） 1. 出典：App Annie

2. 事業が多様化してきていることを踏まえ、従来の「メディア（その他）」を「その他」に変更しております。
3. 当第3四半期連結会計期間において、『TLUNCH』を運営する株式会社mellowの株式を譲渡したことにより持分比率が低下したため、同社を連結の範囲から除外し、持分法適用会社としております。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は5,018,424千円となり、前連結会計年度末に比べ1,273,146千円減少いたしました。流動資産は3,252,632千円（前連結会計年度末比1,484,239千円減）となりました。主な減少要因は、既存事業強化や新規ビジネスへの投資として現金及び預金が1,310,717千円減少したこと、法人税等の還付により未収還付法人税等が363,715千円減少したことによるものであり、主な増加要因は、その他に含まれる立替金が186,163千円、営業貸付金が109,400千円増加したことによるものであります。また、固定資産は1,765,792千円（前連結会計年度末比211,092千円増）となりました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末の負債は1,812,172千円となり、前連結会計年度末に比べ344,015千円減少いたしました。流動負債は1,289,838千円（前連結会計年度末比105,979千円減）となりました。主な減少要因は、消費税等の支払いによりその他に含まれる未払消費税等が136,233千円減少したことによるものであり、主な増加要因は、前受収益が54,958千円、運転資金の借入により一年内返済予定の長期借入金が20,756千円増加したことによるものであります。また、固定負債は長期借入金が238,036千円減少したことにより522,334千円（前連結会計年度末比238,036千円減）となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は3,206,251千円となり、前連結会計年度末に比べ929,131千円減少いたしました。主な減少要因は、利益剰余金が1,083,670千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月期の連結業績予想につきましては、平成30年5月14日に公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」の内容に変更はございません。なお、業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,172,913	862,195
売掛金	614,062	480,828
営業貸付金	1,286,082	1,395,483
貯蔵品	5,194	5,194
未収還付法人税等	363,715	33,611
その他	294,902	475,319
流動資産合計	4,736,871	3,252,632
固定資産		
有形固定資産	187,586	240,484
無形固定資産		
のれん	80,373	6,358
ソフトウェア	395,322	457,824
無形固定資産合計	475,696	464,183
投資その他の資産	891,417	1,061,125
固定資産合計	1,554,700	1,765,792
資産合計	6,291,571	5,018,424
負債の部		
流動負債		
買掛金	79,155	76,471
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	380,816	401,572
未払金	235,220	190,663
未払法人税等	22,296	28,179
その他	278,328	192,951
流動負債合計	1,395,817	1,289,838
固定負債		
長期借入金	616,574	378,538
資産除去債務	143,796	143,796
固定負債合計	760,370	522,334
負債合計	2,156,188	1,812,172
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,505,334	1,621,397
資本剰余金	1,390,186	1,502,918
利益剰余金	1,198,290	114,619
自己株式	△51,933	△52,164
株主資本合計	4,041,878	3,186,771
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	4,152	2,730
その他の包括利益累計額合計	4,152	2,730
新株予約権	5,262	16,749
非支配株主持分	84,090	—
純資産合計	4,135,383	3,206,251
負債純資産合計	6,291,571	5,018,424

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	4,109,505	3,636,993
売上原価	779,273	966,722
売上総利益	3,330,232	2,670,271
販売費及び一般管理費	3,206,238	3,621,720
営業利益又は営業損失(△)	123,994	△951,449
営業外収益		
受取利息	2,349	1,588
為替差益	883	—
還付加算金	577	3,867
雑収入	419	4,874
営業外収益合計	4,229	10,330
営業外費用		
支払利息	3,311	4,942
持分法による投資損失	182	14,953
株式交付費	6,843	18,053
貸倒引当金繰入額	3,999	—
雑損失	1,172	563
営業外費用合計	15,509	38,512
経常利益又は経常損失(△)	112,714	△979,631
特別利益		
関係会社株式売却益	—	53,879
特別利益合計	—	53,879
特別損失		
のれん償却額	—	34,185
特別損失合計	—	34,185
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	112,714	△959,937
法人税、住民税及び事業税	63,977	31,715
法人税等還付税額	—	△4,418
法人税等調整額	78,627	121,149
法人税等合計	142,605	148,446
四半期純損失(△)	△29,890	△1,108,384
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△40,490	△24,713
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	10,600	△1,083,670

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
四半期純損失(△)	△29,890	△1,108,384
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	6,819	△1,421
その他の包括利益合計	6,819	△1,421
四半期包括利益	△23,071	△1,109,805
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,419	△1,085,092
非支配株主に係る四半期包括利益	△40,490	△24,713

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い等の適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号平成30年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等を平成30年4月1日以後適用し、従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引については、「ストック・オプション等に関する会計基準」(企業会計基準第8号平成17年12月27日)等に準拠した会計処理を行うことといたしました。

ただし、実務対応報告第36号の適用については、実務対応報告第36号第10項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、実務対応報告第36号の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、従来採用していた会計処理を継続しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

開示情報としての重要性が乏しいため、記載を省略しております。